

大学院進学経験共有

張晨雪

私は2020年12月に日本にきました。中国の大学では日本語専門でしたが、来日後社会学専門に変えました。その後、先生方々のご指導と努力の結果、早稲田大学大学院人間科学研究科及び立教大学大学院21世紀社会設計研究科に合格しました。これから出願、筆記試験及び面接の三つの角度から受験活動の経験を述べさせて頂きますので、皆さんのご参考になれば幸いです。

一、受験前の準備

1、言語成績の証明書及びその他の証明書は必ず事前に準備しておいたほうが良く、必要な書類が揃わないと出願できない学校もありますので、ご注意ください。

2、社会学の分野はそんなに明確に分けられていない場合は多く、一つの研究テーマにはたくさんの分野と関係する場合がありますので、教授と連絡する時は、もっと臨機応変に幅広く話すことが必要です。

3、出願する前には、該当する研究科の過去問を整理したほうが良いです。同じ専攻であっても、各学校の出題の方向が違う場合もありますので、複数の教授と連絡したとしても必ず受かるとは限りません。従って、慎重に考えるべきです。

4、大学のホームページの出願情報も変わることもありますので、細目に確認し、重要な変更箇所を漏れないように注意すべきです。

二、筆記試験

社会学の筆記試験の内容は大体単語説明と小論文です。どれも大量な知識が必要です。しかし、大学院と大学学部は違って、教授が受験生に期待しているのは単に知識を受け取るのではなく、積極的に知識を自分のものにして、問題を提起し、分析し、解説できる能力が求められます。社会科学類の試験の前は、大量に覚えなければならないし、論文を読む時に、どうして筆者はこの論文をこういう風に書くだろう、研究は如何に展開しているのかを考えなければなりません。

三、面接

面接については、学校の先生からは大きく助けられました。何回も何回も面接の練習をやったことで、私は緊張感を抑えることができただけではなく、研究内容についても深く掘り下げるることができました。従って、先生のアドバイスをよく聞き入れ、自分の面接の下書き内容を充実させるべきです。これによって、面接時自分の日本語の表現を豊かにすることができます。

面接本番では、プレッシャーや緊張感を感じる場合もあるかもれしませんが、これは面接官がわざとこういう雰囲気を作ったわけであり、怖からず怯まず堂々と応対することが重要です。

最後に、亜細亜友之会外語学院から私を日本学生支援機構の文部科学省外国人留学生学習奨励費に推薦して頂き、ありがとうございました。学校の先生方々の激励と応援に感謝しております。将来、私は必ずこれまで以上に努力し、実際の行動と成績で学校や社会に恩返ししたいと思います。

以上は、私個人の進学においての経験です、皆さんにお役に立てれば良いです。これまで、本当に学業においても生活においても私を大きく助けて下さった先生方に感謝しています。先生方のご健康と、後輩の皆さんもいい大学に進学できるように祈ります。